

### 3 回目の流星会議富山開催にあたって

私が初めて流星会議に参加したのは、1980年の御殿場流星会議でした。今は亡き高梨雅彰さんに引きずられるようにして、ほとんど見知らぬ方ばかりの流星会議に半ば不安をもちながら参加した記憶があります。その時の富士山は雲に覆われ、星も見えない中ただ蒸し暑さだけが印象的でした。その流星会議参加も今回で26回目、毎年のように暑い中流星会議に参加し、こうやってお世話する立場さえも金沢開催を含め、4回目になりました。インターネットが普及し、わざわざ出かけなくても情報が入る時代になりました。百数十名の参加者で熱気にあふれていた流星会議は過去のものかもしれませんが、それでも全国から参加していただいた熱心な方々により、今年も流星会議を開催できることを主催者として喜びたいと思います。時代は変わっても、直接会うことによって得られる刺激は他に替えられないものであり、その価値はこれからも変わることはないと思います。一方、このような地方での流星会議の開催は、その地方で天文を趣味にしているメンバーが全国の方と交流をもつ機会でもあると思います。1泊2日という短い日程ですが、これを機会に新たな交流が生まれることも期待しています。故高梨さんの思いは、流星の普及と共に、流星を通しての人的交流の拡大であったようにも思います。気が付けば、私自身も流星会議を通して多くの友人ができ、いろいろなことを教わってきました。今年の流星会議でも、新たな出会いや刺激への期待でわくわくしています。富山開催は3回目になります。今年は、はやぶさ帰還が話題になっていますが、プログラムにもはやぶさ関連の内容を盛り込むことができ、今回の目玉になるかと思います。また、今回も富山の米、水、魚等のおいしさを味わっていただくことができるかと思います。例年のように暑い夏ですが、富山の魅力を感じながら、流星会議を楽しんでいただければと思っています。最後に、寂しいお知らせもしなくてははいけません。本来、スタッフとして加わっているはずのメンバーがひとり欠けています。きときと流星会議、氷見流星会議と一緒にスタッフとして頑張ってきた種口裕人さんが、今年5月に永眠しました。彼が日本流星研究会を退会されたとき、その理由を確認もせず、気がついたときには、大切なメンバーがあの世界へ旅立っていました。残されたメンバーとして、流星会議を盛り上げることが彼の供養にもなると信じて、今年の流星会議のお世話をしたいと思っています。

平成22年7月  
第51回富山流星会議  
実行委員長 溝口 秀勝